

天北小だより

臨時号

令和８年１１月１２日

松原市立天美北小学校

子どもたちの学びをさらに高めるために

～全国学力・学習状況調査結果を受けて～

全国学力・学習状況調査について
日　時　：令和8年4月23日（木）
調査内容：①教科に関する調査（国語・算数）各45分
　　②生活習慣や学習環境等に関する調査



４月に小学校6年生・中学校3年生を対象に、全国学力・学習状況調査が行われました。 新学習指導要領の趣旨をふまえ、平成３１年度よりA問題(知識・技能等)とB問題(活用等)を分けずに一体的に問う問題になっています。

以下に、この調査における本校の結果概況と、今後の方向性についてお知らせします。

１、教科に関する調査（国語・算数）

（国語について）

どの問題も最後まであきらめず解答していました。指示が明確な問題や漢字の書き取りの定着率が高かったです。また、問題文の精読と基本的な読解問題も比較的よかったです。国語の平均点が、全国60．9%、大阪府59．0%、本校62．0%と国、府を上回る正答率でした。授業で何をするのか、明確なめあてや指示を意識してきたこと、小テストや宿題での反復練習、個別指導が少しずつ実を結んできていると考えられます。また日頃から文章を丁寧に読み込んで、要点を使う学習習慣も定着してきています。

一方、文章全体をとらえて、必要な情報の抽出や複数の情報やグラフなどの図表などから自分なりに整理して目的や条件を満たした内容を選んだり、記述したりすることに課題が見られました。どんな目的があるのか、何のためのやり取りなのかなど、必要な情報を読み解いたり、問題文の指示や条件に合わせて書いたりすることに苦手意識があるように感じられました。

比較的良かった部分も継続して取り組んでいくとともに、課題についても、複数の資料や情報から必要な情報を整理し絞り込んでいくことや目的や伝える相手を把握し、目的に応じて、自分の考えをわかりやすく根拠をもって表現する力や、複数の情報や条件を整理してアウトプットする力の育成をめざして学校全体で取り組んでいきます。

（算数について）

どの問題についても頑張りました。平均の正答率は、全国55．3%、大阪府56．0%、本校60．0%で比較的よくできていました。基礎基本の計算については、低学年からの系統立てた学習の成果としてほぼ定着しています。白紙回答も少なく、あきらめずに粘り強く問題と向き合ったことも見られます。小数や分数を含め、数値の大きさをとらえることは直感的にできていたように思います。

式をたてることには慣れているけれど、問題の意味や図、式の意味をちゃんと把握できているのかどうかに課題が残りました。また、単位量あたりや割合の概念が難しかったです。何を元にして考えていかないといけないのかに課題がありました。公式を忘れたとしても、問題文と図を照らし合わせながら解法を導き出すなど数学的な見方・考え方で捉えるところに課題が見られました。また、図形・空間認知についても課題が残りました。日ごろからデジタ化もあって自分の手で具体物を多角的にみたり、触ったりする実体験が少なくなってきていることにも影響しているかと考えられます。

問題から線分図、立式といききしながらじっくり考える活動を通して思考の過程を大切にすることや、デジタルに頼りすぎず、具体物操作の実体験を取り入れていく活動、そして、式や図表を使って数学的に表現する力や買い物などの日常生活に活かす力を育成する指導に取り組んでいきます。

２、生活習慣や学習環境等に関する調査

全国平均を上回るポジティブな回答をした項目は、

「自分にはよいところがると思いますか」全国85．6%、大阪府86．1%、本校89．8%、

「将来の夢や目標を持っていますか」全国81．8%、大阪府80．7%、本校、89．8%

「先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか」全国91．4%、大阪府92．5%　本校97．9%でいずれも全国、大阪府を上回る結果でした。

反対に、肯定的な回答が国の平均よりも特に低い結果だったのが、

「朝食を毎日食べていますか。」全国93．3%、大阪府92．1%、本校85．7%

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」全国96．2%、

大阪府95．0%、本校89．8%

「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）１　日当たりどれくらいの時間、勉強しますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっており時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」で

30分未満の児童の割合が、全国20．2%　大阪府29．5%　本校32．7%

「学校の授業以外に、普段、１日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」の質問で読書時間30分未満が

全国61．4%　大阪府61．4%　本校48．9%でした。

《引き続き規則正しい生活と家庭学習の習慣と活字に触れる機会を》

国語、算数については、ある一定の成果をあげていますが、自宅以外で学習する時間が30分

未満の児童も一定数いることを鑑み、家庭学習の習慣化をめざして取り組んでいかないといけません。また、学校の授業以外の読書時間も、全校、大阪府に比べて少ない結果となりました。スマホ・ゲーム等の利用について1日4時間以上の児童も26．5%いることは、活字に触れる機会の少なさも課題として浮かび上がっています。

大人も子どもも、本や新聞など活字にふれることが減り、SNSやゲームなどに使う時間が増えています。 学力の基礎となる「文章を読み解き、じっくりと考えたり想像力を豊かにしたりすること」や、「自分の考えを表現し伝えたり、書いたりする力を育てる」ためにもデジタル画面ではなく活字に触れることはとても大切です。

3、これからの取り組みについて

学校では日々授業改善に取り組むとともに、家庭学習の習慣化や読書など、デジタル画面に頼りすぎることなく、活字に触れる機会も大切にしていきます。また、教科学習を通して、生涯にわたって学び続ける力や自分の考えや意見を自分の言葉で表現する力の育成を継続して取り組んでいきたいと思っております。そして、学校の教育活動全体を通して、仲間を大切にする気持ちや思いやりの心を育むことにもしっかりと取り組んでいきます。

今後も、学校と家庭が一緒にお子様の健やかな成長を応援していきたいと思います。これからも、どうぞよろしくお願いいたします。